

論 説

## ICT 機能の発展と大学図書館機能の関連性 —情報リテラシー教育とラーニング・コモンズへの対応—

小野寺昇<sup>\*1</sup> 廣川恵子<sup>\*2</sup> 細川芳美<sup>\*3</sup> 杉本美佳<sup>\*3</sup>  
渡邊その子<sup>\*3</sup> 高原明子<sup>\*3</sup>

### 要 約

本論は、ICT 機能の発展と大学図書館における図書館機能の変革と ICT 機能の発展の関連性を論じた。近年の ICT 機能の発展に伴い、図書館の機能や役割の新たな整備が求められている。本論は、ICT 機能の発展に伴う情報リテラシー教育に関する図書館機能の具体的な対応例を参照して論ずる。2つの大学図書館を見学し、先進的な事例として取り上げた。本学図書館の情報リテラシー教育とラーニング・コモンズの具体策を紹介した。電子的なコンテンツの増加は、必ずしも書籍の貸出によらない知識の受領が可能になっている。書籍の知は、読者の知となる。このような一方向の認識からラーニング・コモンズやアクティブラーニングの導入等による双方向型コミュニケーション環境づくりへの変革に資する情報リテラシー教育の推進が図書館機能の将来性ある対応であると考察した。

### 1. はじめに

近年の Information and Communication Technology 機能（以下 ICT 機能）の発展に伴い、新たな大学図書館機能と役割が求められている。ICT 機能の発展は、電子的なコンテンツの増加をもたらし、書籍の中にあった文字情報がインターネットに乗って流通し、必ずしも書籍等の貸出によらない知識の受領を可能にさせた。これまでの大学図書館機能の中心は、書籍等の貸し出しにあった。書籍等の貸し出し機能は、書籍の知が読者の知となる一方向性という特徴を持っている。しかしながら、ICT 機能の発展に伴い、情報リテラシー教育やラーニング・コモンズ、アクティブラーニングなどが導入され、一方向型から双方向型コミュニケーション機能を備えた環境づくりが大学図書館に求められてきている。

文部科学省は、「学術情報発信に向けた大学図書館機能の改善について（報告書）」を2003（平成15）年3月17日に発出し、大学図書館の電子図書館機能の整備を周知した<sup>1)</sup>。なぜ、文部科学省がこの時期に対応方針を発出したのか。その背景として挙

げられるのが、「学術情報の電子化が進み、その流通形態が歴史的な変革を遂げている現在、大学と図書館の活動はまさに各々の大学の教育研究の国際競争力を左右する重要な要素だといってよい。」<sup>1)</sup>と表現される情報の電子化の急速な発展である。電子化された情報がインターネット・ネットワーク（流通形態）の流れに乗り、大学図書館の双方向型コミュニケーション機能を加速させている。

平成10年7月に教育課程審議会は、高等学校に教科「情報」を必修科目として新設し、学習指導要領を改訂した<sup>2)</sup>。平成15年から「情報」が高校の必修の新科目として導入され、情報リテラシー教育が開始された。米澤<sup>3)</sup>は、「情報リテラシーとは、情報の必要性を判断し、情報にアクセスし、情報を評価し、効果的に利用することができる能力のことである」と定義した。平成18年4月から入学した大学生は、情報リテラシーへの基本的な知識を持っているものと捉えられている。しかしながら、現実にはコンピュータ操作技術の習得に留まっている可能性が高いと推察する。このような大学生に対する情報リ

\*1 川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科

\*2 川崎医療福祉大学 保健看護学部 保健看護学科

\*3 川崎医療福祉大学附属図書館

（連絡先）小野寺昇 〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学

E-mail : shote@mw.kawasaki-m.ac.jp

テラシー教育の対応が新たな大学図書館機能としてのラーニング・コモンズの形成に求められている。

米澤<sup>3)</sup>は、我が国の一般的な見解として「ICT時代となった現在、その環境における学習を支援する施設・設備として生まれたのがラーニング・コモンズである」と述べている。ラーニング・コモンズは、学生の自主的な問題解決のための支援であり、その施設・設備に図書館が該当するという考え方である。ラーニング・コモンズは、インフォメーション・コモンズの発展形であると考えられる<sup>4)</sup>。リッピンコットら<sup>5)</sup>は、「インフォメーション・コモンズは、学習を強化し、学生に学問と交流の両方の環境を提供し、キャンパスのコミュニティの意識を育成することができる」と指摘している。この考え方は、「学生に学問と交流の両方の環境を提供」する具体がICT機能の発展に伴うラーニング・コモンズという環境の提供であると推察する。

一方、ICT機能の発展に伴い教室を離れた学習支援としてのアクティブラーニングやe-ラーニングが発展してきている。岩崎ら<sup>6)</sup>は、「日本のLC（ラーニング・コモンズ）では、従来の図書館サービスから学習支援における幅の広がりが示された」（LC; Learning Commons）と述べ、日本のラーニング・コモンズが日本独自の学習支援という進化を遂げている可能性を示唆している。

伊藤<sup>7)</sup>は、「ラーニング・コモンズには、調べたいことがあったときにすぐにアクセスできる文献・論文・ジャーナルなどの資料となるコンテンツの存在が求められる」と述べ、電子図書化がICT機能

の発展に伴い自由度の高いコンテンツへ変革していることを示唆した。一方でラーニング・コモンズのさらなる向上には、教員、図書館員、大学院生などの人的なサポートが不可欠であることも挙げている。

大学図書館は、情報リテラシー教育を具体化するグループワークスペース（会話が可能な空間）を整備し始めている。秋田県にある公立大学国際教養大学は、机の配置や学習メディアの提供に関連させたMulti Purpose RoomやSpeaking Roomという名称の空間を整備し、情報リテラシー教育とラーニング・コモンズの相乗を実現させている。情報リテラシー教育の考え方を実現させているラーニング・コモンズの例として参考になる。このような空間（施設・設備）の充実が、情報リテラシー教育があってこそ一方向型学習から双方向型学習（相互のディスカッション）への転換を可能にしていると考える。岩崎ら<sup>6)</sup>が指摘する「施設・設備と学習効果向上が関連」というラーニング・コモンズの認識が国内でも拡大していると推察する。明治大学は、図書館の基本機能である「資料保管・提供」に、ラーニング・コモンズの機能である「プレゼンテーション」、「コラボレーション」、「リラクゼーション」、「教育支援サポート」の4要素を付け加えた新しい図書館を建設し、菅<sup>8)</sup>は竣工年の1日平均入館者数が旧図書館の2倍以上（8,000人）に増加したと報告した。今後の大学図書館機能は、ラーニング・コモンズを支える情報リテラシー教育の充実が整備されることによりさらに機能の発展が促進されるものと考ええる。図1に本論で議論する大学図書館における情報リテラ

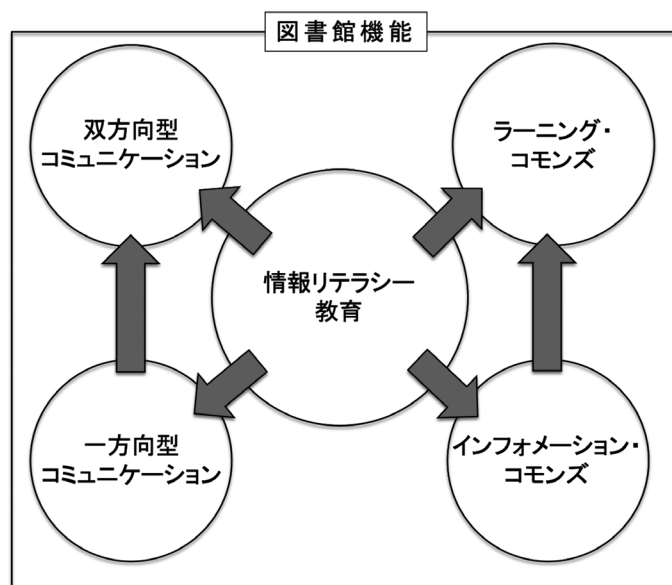


図1 図書館における情報リテラシー教育とラーニング・コモンズの関連性

シー教育とラーニング・コモンズの関連性をまとめた。

本論では、以下で具体的な整備の取り組み等について参考になる事例を取り上げる。これらの事例より、一方向型から双方向型コミュニケーションに移行しつつある大学図書館機能に及ぼす情報リテラシー教育及びラーニング・コモンズへの対応と ICT 機能の発展の関連性について論じた。

## 2. 大学図書館機能の改革

### 2.1 国際教養大学図書館の情報リテラシー教育とラーニング・コモンズへ対応

国際教養大学図書館の現地視察を2024年3月12日に行った。現地視察の内容と資料に関する説明の本稿への記載の了解を得た。国際教養大学図書館は、開学（2004年）から4年後に完成した2階建ての独立棟から成る図書館である。全ての講義が英語で行われているため、蔵書の70%は日本語以外のコンテンツである。この図書館の最大の特色は、365日・24時間の開館にある。学生だけでなく、地域住民も同様に利活用が可能な点も特質である。秋田杉を用いた内部は、見る者を圧倒するデザインであり、ここで学習したいとの思いが深まる落ち着いた吹き抜け構造からできている。

国際教養大学図書館は、自習席エリアとして、Study Space・Reading Lounge、DVD Booth、グループ学習エリアとして Multi Purpose Room・Speaking Room、支援エリアとしてヘルプデスクを備えている。ヘルプデスクは、レファレンスサービスを提供し、情報リテラシー教育を実践する空間である。例えばレポートを書くときに資料の収集が捗らないときの検索キーワードのアドバイスや資料の整理の仕方等の支援をしている。ヘルプデスクは、この分野に精通した図書館員が受け持っている。

ICT 機能の発展によって、書籍や研究論文等の情報が世界中に素早く公開・公表される時代になっている。これらの情報を読み手が獲得するために、情報リテラシー教育がある。情報にたどり着くためのレファレンスサービスを担当するヘルプデスクは、情報リテラシー教育のアンカーといえることができる。特にヘルプデスクが配置されていることによる情報獲得が、グループ学習エリアの学習機能を高めていると考えられる。このような自由席エリア・グループ学習エリアを活性化させるヘルプデスクの組織的な大学図書館機能への取り組みが ICT 機能の発展に対応したラーニング・コモンズの理想形であると考えられる。文部科学省が発出した「学術情報発信に向けた大学図書館機能の改善について（報告

書）」<sup>1)</sup>の大学図書館機能を具現化したと感ずるほどの完成度を見ることができる。

### 2.2 新潟医療福祉大学図書館の情報リテラシー教育とラーニング・コモンズへ対応

新潟医療福祉大学図書館の現地視察を2024年3月13日に行った。現地視察の内容と資料に関する説明の本稿への記載の了解を得た。新潟医療福祉大学は、6学部15学科からなる医療福祉大学である。本学と類似する学科構成を持つ大学であり、図書館の蔵書内容についても類似している。

新潟医療福祉大学図書館は、3階建ての独立棟である。各階毎に図書館機能のラーニング・コモンズ空間のカテゴリー化を明確にしていることが特徴である。1階はアクティブラーニングスペース、2階はリサーチスペース、3階は学習スペースである。アクティブラーニングスペースには、コロの付いた円形のデスクと椅子、そしてモニター（大画面）が配置されている。それぞれのモニターと各々のコンピュータが接続可能な機能を備えている。このような配置が図書館の資料（蔵書等）や図書館外の資料と接続することを可能とし、双方向型の大学図書館機能を活性化させている。館内のいたる場所に「LINE 呼び出しコール・QR コード」が表示されている。「本場所がわからないなど、困ったことがあったらご連絡ください」と添え書きがあり、この大学図書館にもヘルプデスクと同様の機能が備わっている。

3階の学習スペース（300席）は、最も人気の高いエリアという説明を受けた。その理由は、1席ずつの区切り・個々の電源と照明・ネットワーク接続端子の設置にある。双方向型学習支援のハード整備を行っている。3階の学習スペースには、さらに静かに集中して学習したい学生に配慮した Q スタディールーム（31席）、休息スペースのリフレッシュエリア（ソファを設置）も備えられている。資格対策のコーナーや地域のテーマを取り上げたコーナーなど学生密着、地域密着を意識した企画を展開している。

この図書館のもう1つの特徴は、学習支援センターの図書館組織内設置である。インフォメーション・コモンズの発展形をラーニング・コモンズに再構成している。学習支援を必要とする学生に対して学習支援センター委員長・図書館員・大学院生が中心になって個別指導を展開している。この様に、ラーニング・コモンズの出発点になっているインフォメーション・コモンズを再び組織化していることが、ラーニング・コモンズへの新しい対応と考えられる。その背景には、情報リテラシー教育では不足している部分を教員・図書館員・大学院生が担い、学生への

この様な支援が大学図書館機能の新たな取り組みとなってきた点が考えられる。情報リテラシー教育と学生教育を一体化させる新たなインフォメーション・commonsの構想が、ラーニング・commonsをさらに発展させると考えられる。

2.3 川崎医療福祉大学図書館における情報リテラシー教育とラーニング・commonsへの対応  
図2-1、図2-2に本学図書館が企画した情報リテラシー教育の企画を示した。全部で14の企画を2023年4月から開始し、現在13番目の企画を実施中である。

企画展示・活用①

	実施期間	企画名	コンテンツ	コンセプト	貸出件数	発案者	作成リーダー
1	2023年4月-6月	企画展示 新入生へのおすすめ本	各学科、センター、大学院担当の教員のおすすめ本！新入生だけでなく、在学生にもおすすめです！	17学科、総合教育センター、大学院の先生方から推薦していただいた本を先生方のおすすめコメント付きで展示。入学後の学習の補助としてご活用ください。	43	細川芳美	杉本美佳
2	2023年6月-9月	活用企画 闇鍋	どんなものかわからない図書と の出会いを求めてみませんか？	タイトルも、表紙も、分類さえもわからない本たち。表紙に貼られた紹介文を読んで、心惹かれたものを借りてみてください。	47	渡邊その子	渡邊その子
3	2023年6月-9月	企画展示 こんなお仕事マンガあります！	マンガを通して医療系職種を理解しよう！	将来自分たちが就く職業や、チームとして働くことになる他の医療系職種について知るきっかけをつくる。大学図書館にも手に取りやすい資料があることを知ってもらおう。	149	高原明子 佐藤美由紀	高原明子
4	2023年7月-8月	活用企画 リーディングトラッカーを 館内でご利用いただけます！	理想療法学科とは、コラボしたリーディングトラッカー！ぜひ使ってみてください。	リーディングトラッカーとは読書が困難な人のために誕生した読書補助員です。ディレクショナル（読み書き困難、読字障害）や、視覚障がいのある人の読書をサポートするツールであるとともに、読書に集中したい人にもおすすめのツールです。「同じ行を何度も読んでしまおう」「読書きの文章を読むのが苦手」「一冊に集中できない」「そんな人は、ぜひ一度使ってみてください。	**	沼本佳子	沼本佳子
5	2023年9月-12月	企画展示 親本雑誌はカタイのだけじゃないゾ！	敬遠されがちな学術雑誌ですが、読みやすい雑誌もあるんです。この機会に手にとってみませんか？	「雑誌」の表紙って薄くてベラベラ！図書館では、保存のため、分厚い表紙をつけて「親本」します。するとあら不思議！「固くてとって面白くない」そんな見えない目にも…でも、中身はやっぱりいい雑誌もあるんです！	1	佐藤美由紀	佐藤美由紀
6	2023年9月-2024年2月	活用企画 2022年度貸出ランキン	昨年年度の先輩の軌跡を参考にしましょう！	全体の貸出ランキン、学科別の貸出ランキンを掲示しています。学科ごとの特色も出ていますので、ぜひご覧になってください。	534	小野奏	小野奏
7	2023年9月-2024年2月	企画展示 本のポップ作りしました！	学生おすすめの本の図書たちです。ポップを見ながらあなたも読んでみて。	学生に、本選びからポップ作りまでお願いしました。	26	小野奏	小野奏

注)\*\*は、貸出件数のカウント外です。

図2-1 本学図書館が企画した情報リテラシー教育の内容

図2-1、図2-2には企画名・コンテンツ・コンセプト  
および発案者を示した。発案者は本学図書館員である。企画発案に基づいたコンセプトの具体化作業を全図書館員と共に実行した。企画の実行により、貸し出し数が実質的に増加した。例えば、企画名リー

ディングトラッカーは、読書が困難な人達のために開発された特殊補助具であり、視能療法学科とのコラボレーションによって、学生およびオープンキャンパスに参加した高校生に対しても紹介することができた。このことは、書籍以外のコンテンツにおい

企画展示・活用②

	実施期間	企画名	コンテンツ	コンセプト	貸出件数	発案者	作成リーダー
8	2024年3月-実施中	企画展示 大学生生活応援本	新たな生活に向けて、図書がお手伝いします！	大学での「講義の受け方」や「レポートの書き方」だけでなく、「初めての自炊」や「人間関係の悩み」など大学生生活全般に役立つ本を集めました。	34	沼本佳子	高原明子
9	2024年4月-実施予定	活用企画 図書館利用Q&A	図書館の使い方方をゲーム感覚で実践してみよう！	提示された新入生向け図書館の使い方を探して問題に答えたり、学科に関連する課題を解いたりして、キーワード探しを実施する。	5	渡邊その子	渡邊その子
10	2024年4月-実施予定	活用企画 就活関係eBook紹介	就活関連資料をあなたのスマホで見てください！	どうしても、紙の本と比べて存在を認識されにくいeBook。その存在を認識してもらい、さらに有用性を体感してもらうため、アクセスのための入り口を大きくアピールします。まずは便利な就活関連本から。	66	高原明子	高原明子
11	2024年6月-実施予定	企画展示 すみっこ図書館	図書館資料に新たな出会いを！あなたとの出会いを待っています。	図書館内のすみっこにあって、読まれていない資料や場所が分かりにくい資料を紹介し、利活用に繋げる。	15	佐藤美由紀	渡邊その子
12	2024年7月-実施予定	活用企画 冒頭1文だけで選ぶ	冒頭1文で想像してみてください、続きはぜひ貸出後のお楽しみ！	どんな本を読もうか迷ってしまい手が出せずにいる人の背中を押すための企画。多すぎる情報は得て私たちを迷わせてしまうものです。そのためこの企画では、本をフリーストインプレッジョンで選ぶことを提案します。本の「最初の一文」は、著者が読者の心を掴むための大切な部分。ここに心惹かれたなら、余計なことは考えず「とりあえず借りてみる」「とりあえず読んでみる」で正解だと伝え、利用を促したいと考えました。	32	高原明子	沼本佳子
13	2024年9月-実施予定	企画展示 読書でリラックス	リラクゼーションにも図書は有効です。よ、あなたをほわほわにしてみませんか？	学術書・読み物・写真集・絵本・まんが等ジャンルを問わず、勉強で疲れた頭になった頭がほわほわとやわらかくなるような資料を選書、展示する。		稲谷有実子	稲谷有実子
14	2024年11月-実施予定	企画展示 誰も借りたことのない本	実はこんな本も所蔵していますよ、期待してください。	図書館所蔵の図書で、貸出履歴のないものを調査し、企画展示する。利用者に「図書館にこんな本があったんだ」という気持ち・驚き、期待感を与える。		佐藤美由紀	佐藤美由紀

図2-2 本学図書館が企画した情報リテラシー教育の内容

ても大学図書館の情報リテラシー教育の進展に寄与する企画が可能であると推察する。このような企画が、情報リテラシー教育の狙いである図書館入館のキッカケ作りに貢献し、リピーターの獲得に貢献することを期待する。

本学の図書館は、情報リテラシー教育の一環として新入生に対する図書館利用に関するセミナーを学科ごとに開催している。例えば臨床心理学科の学部生・大学院生に対しては、特殊な検索語に関する実例を示し、修士・博士論文等の研究資料の獲得にも図書館員が支援する活動を展開している。本学図書館の検索の利便性は、川崎医科大学図書館および川崎医療短期大学との連携に大きな特徴がある。3大学の学生・院生・教職員・卒業生は、3つの図書館の蔵書と検索システムを利活用することができる。このことは、ラーニング・コモンズ空間（支援環境）の拡大に大きく貢献しているものと推察する。

### 3. 大学図書館の名称変更

大学図書館の名称が変更になっている事例が散見される。例として「図書館・情報センター」などの名称が挙げられる。このような背景として、ICT機能の発展が挙げられる。電子的なコンテンツの増加およびインターネットの普及による情報伝達速度が増加したことにより、大学図書館の持つ機能も多様化したことが、その背景として挙げられる。

国立大学図書館協会のホームページ（HP: Home Page）<sup>9)</sup>によると全会員数92のうち、名称として図書館を標榜する図書館が86館、情報センター等が5館、その他1館である。公立大学図書館協会のHP<sup>10)</sup>によると全会員数97のうち、図書館が77館、情報センター等が18館、その他2館である。私立大学図書館協会のHP<sup>11)</sup>によると全会員数516のうち、図書

館が464館、情報センター等が49館、その他3館である。私立大学図書館協会会報（2007年度から2022年度）<sup>12)</sup>の資料によると図書館から情報・メディアセンターへの名称変更が16館、情報センター等から図書館への名称変更が18館であった。

図書館から情報・メディアセンター等への名称変更は大学図書館が図書館単独の機能を持つ組織から情報センター等の組織に改組されたことを示している。しかしながら、以前の図書館だけの名称に再変更になっている事例（18館）も散見されるようになった。大学図書館が多様性（アクティブラーニングやe-ラーニング、情報リテラシー教育など）に適応した機能を整備したことにより、これらが本来の大学図書館機能に包含されとの認識となり、再び図書館という独立名称に変更されたと推察する。

### 4. 大学図書館機能の改善・改革

ICT機能の発展と大学図書館機能の改革の関連性を図3に集約した。ICT機能の発展は、大学図書館機能を書籍の「知」が読み手への一方向型から相互に情報交換が可能な双方向型への変革へと導いたと推察する。図書館への双方向型学習支援を確保するためのラーニング・コモンズを具体化したアクティブスペース（コンピュータを用いた会話、声の会話）の配置など、静かに学習したり、検索したりする大学図書館から能動的な大学図書館機能への機能進展が最も顕著な改善改革であると推察する。

### 5. まとめ

ICT機能の発展に伴う新たな大学図書館の機能や役割に関して大学図書館を視察し得られた事例に基づき文部科学省の基本方針を参照し、大学図書館の機能変革について論じた。次の3つに集約した。



図3 ICT機能の発展と大学図書館機能の関連性

- ①一方向型から相互に情報交換が可能な双方向型への変革を導いた。
- ②双方向型の学びを可能とする施設（機能）が具現化しつつある。
- ③情報リテラシー教育の深化に寄与する。  
このような改革・改善が大学図書館機能や役割をさらに向上させるものと推察する。

#### 謝 辞

本論の作成にご協力いただきました佐藤美由紀氏、沼本佳子氏、小野奏氏、稲谷有実子氏に感謝申し上げます。

#### 文 献

- 1) 文部科学省研究振興局情報課：学術情報発信に向けた大学図書館機能の改善について（報告書）。<https://www.janul.jp/sites/default/files/2018-02/kaizen.pdf>, 2003. (2024.3.7確認)
- 2) 文部科学省：高等学校学習指導要領情報科関係資料。[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/mext\\_01831.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_01831.html), 2018. (2024.3.7確認)
- 3) 米澤誠：ラーニング・コモンズの本質—ICT時代における情報リテラシー/オープン教育を実現する基盤施設としての図書館—。名古屋大学附属図書館研究年報, 7, 35-45, 2009.
- 4) 呑海沙織, 溝上智恵子：大学図書館における学習支援空間の変化—北米の学習図書館からラーニング・コモンズへ—。図書館界, 63(1), 2-15, 2011.
- 5) ジョアン, K. リッピンコット：インフォメーション・コモンズを学習に結び付ける。加藤信哉, 小山憲司編訳, ラーニング・コモンズ—大学図書館の新しいかたち—, 勁草書房, 東京, 141-162, 2012.
- 6) 岩崎千晶, 川面きよ, 遠海友紀, 村上正行：我が国の4年制大学におけるラーニングコモンズの学習支援に関する現状。日本教育工学会論文誌, 45, 197-200, 2021.
- 7) 伊藤文男：キャンパス全体で構成するラーニングコモンズ—追手門学院大学の教育改革がもたらしたラーニングコモンズの新しい形—。大学時報, 73, 417, 50-55, 2024.
- 8) 菅和禎：学生が集まる空間を魅力的に—明治大学におけるラーニングコモンズ—。大学時報, 73, 417, 56-61, 2024.
- 9) 国立大学図書館協会：会員一覧。<https://www.janul.jp/ja/member/all>, 2024. (2024.9.3確認)
- 10) 公立大学協会図書館協議会：加盟館概要。<https://www.japul.org/gaiyo>, 2024. (2024.9.3確認)
- 11) 私立大学図書館協会：概要(加盟校数)。<https://www.jaspul.org/about/index.html>, 2024. (2024.9.3確認)
- 12) 私立大学図書館協会：私立大学図書館協会会報。127～158号, 1993～2024.

(2024年11月13日受理)

## The Relationship between the Development of ICT Functions and University Library Functions: Response to Information Literacy Education and Learning Commons

Sho ONODERA, Keiko HIROKAWA, Yoshimi HOSOKAWA, Mika SUGIMOTO,  
Sonoko WATANABE and Akiko TAKAHARA

(Accepted Nov. 13, 2024)

**Key words :** ICT functions, university library functions, information literacy education,  
learning commons, two-way communication

### Abstract

This study examines the relationship between the development of ICT functions and information literacy education in university libraries. In recent years, new functions and roles for libraries have emerged with the development of ICT. This study discusses how the university's library functions should respond to information literacy education through the development of ICT functions. Two university libraries were visited and selected as advanced examples. Specific measures for information literacy education and learning commons at our university library were introduced. The increase in electronic content has made it possible to receive knowledge without necessarily borrowing books. It was considered that the knowledge of books becomes the knowledge of readers. A transformation from such a one-way perception to the creation of a two-way communication environment is a promising response for library functions through the introduction of learning commons and active learning.

Correspondence to : Sho ONODERA

Department of Health and Sports Science  
Faculty of Health Science and Technology  
Kawasaki University of Medical Welfare  
288 Matsushima, Kurashiki, 701-0193, Japan  
E-mail : [shote@mw.kawasaki-m.ac.jp](mailto:shote@mw.kawasaki-m.ac.jp)

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.34, No.2, 2025 177 – 184)